

検査部

Clinical Laboratory

検査部長
一山 智



高度医療を支え先進の臨床検査を実践する

当部では、国際規格の臨床検査室認定ISO15189 2012を取得し、高度医療を支えるために幅広い臨床検査を実践している。24時間365日の緊急検査体制や外来患者の診察前当日検査の実現、さらに超音波センター開設など、診療サービスの向上に取り組んでいる。具体的には主に以下の業務を行っている。

- ①先進医療・臨床研究のサポートをするために検体検査部門では、検査の迅速報告と業務の効率化および低コスト化を実現し、診療支援と臨床研究支援のシステムを構築
- ②感染症診療の情報源を担い、感染制御部との密な連携
- ③生体検査の生理機能検査は、超音波検査センターおよび睡眠脳波検査の拡充と循環機能検査と神経機能検査の充実
- ④遺伝子細胞検査は、移植医療の支援と遺伝子検査によるがん診療の貢献
- ⑤品質管理委員会による品質マネジメントシステムの継続的管理（検査データの精度保証）

業務内容の特徴と実績

当院の責務に貢献できる体制

臨床検査業務を行う検査部は、中央診療センターの主要部門として、当院が果たす地域医療機関としての役割、最先端高度医療の推進および教育機関としての責務に貢献できる体制を整え、ISO15189 2012認定取得に伴い治験管理業務への貢献やiPS細胞研究所との連携も期待される。検体検査を統合するシステム検査（自動化検査）部門、心電図など生体検査を行う生理機能検査部門、院内統合された超音波検査センター、感染症の原因を明らかにする微生物検査部門、そして免疫不全症や造血器悪性腫瘍の診断に必要な検査等を行っている遺伝子細胞検査部門と診療科が所有する検査機器のメンテナンス対応など、柔軟な検査体制を構築。夜勤、日勤体制は、診療側のニーズに応えるべく4体制の割り振り勤務を実施している。

柔軟な検査体制と実績

- ①緊急検査室は、時間外の緊急検査体制を充実し、特に救急外来や休日の検査体制の強化を実施。
- ②輸血細胞治療部は、非常時に安全な輸血業務の対応が出来るように、24時間365日体制を実施。検査部所属の技師も多数、輸血細胞治療部へ出向。
- ③微生物検査は、1年を通して日勤業務を休まず維持管理することで、感染制御部と連携し、院内感染防止へ貢献。

- ④監視型終夜睡眠ポリグラフィーの夜勤体制。また、治験業務の組織的対応など種々の診療ニーズに対して機動的に対応。

2013年度実績は、検査総件数は、約833万件で、前年度に比較して約0.8%件数が増加した。検体検査（システム・微生物、遺伝子細胞）総件数は約714万件で、血液検査（2.0%）、生化学検査（1.0%）、外来採血患者数（2.8%）、遺伝子検査（12.3%）、細胞分析検査（4.2%）と前年度に比べて増加した。生理機能検査総件数は約7.9万件で、循環機能検査（6.2%）、呼吸機能検査（6.1%）、超音波検査（6.0%）と前年度に比べての増加率を示した。診療、研修および研究の支援部門として迅速で質の高い検査結果を診療側へ提供している。依頼件数の増加は臨床検査そのものの需要増加を意味するが、医療の質を担保する観点から、より効率的な検査オーダーによる検査件数の低減が求められている。



高度先進医療の取り組み

各診療科の先進医療を支援

検査部は中央診療施設として、各診療科における先進的医療を支える立場にある。検査項目によっては、それ自体が先進的内容であるものもある。EBウイルスやサイトメガロウイルスの定量検査は、移植医療において欠かせないものとなっている。診療支援の一環としてチーム医療へ積極的に取り組んでいる。入院患者の糖尿病教室における検査指導、NSTへの参加および病棟での採痰指導を行い、患者・診療側双方から好評を得ている。新しい臨床検査の実践と診療科・各部門と連携した臨床検査サービスの提供を通じて、高度医療への貢献を続けている。

